

誌上講義 問題発見思考

企業が成長し続けるには、それを妨げる本質的な問題を発見し、解決策を立案し、実際に行動するという一連の問題解決のアプローチを理解し、実践しなければならない。ここで大事なことは、「まず本質的な問題を発見する」ということ。そのためには良い情報を集め、分析し、その新しい発見を再び統合して本質的な問題とは何かを理解することが不可欠になる。講座では、一連の「問題発見」における重要な「考え方」を理解し、何度も繰り返し練習することで、実務につなげる力を養っていく。

問題を発見し、自らタクトを振って
解決していくことに価値がある

ビジネス・ブレイクスルー大学院大学
▶募集概要 P132
〒101-0022
東京都千代田区神田練堀町3番地
富士ソフトビル 19F
☎03-5860-5531 (秋葉原校舎)
<http://www.ohmae.ac.jp/>

過去の成功事例を真似ても 問題解決はできない

景気の減速が鮮明になる中、業績が悪化する企業が増えています。業績の悪化を食い止め、再び成長軌道に乗せるために取り組むべきことは何か。結論から言えば、まず何よりも優先すべきはその企業が抱えている「本質的な問題」を発見することです。本質的な問題の発見なしに、過去の成功体験に基づく改善策を実施したり、他企業のベストプラクティスを真似たりしても、業績向上は望めません。過去の状況や他社の状況と、現在の自社の状況は異なるからです。「解」を見出すには本質的な問題点をしっかりと見据える必要があります。それを発見するための「考え方」を習得するのが、「問題発見思考」です。

企業の業績向上を通じて、 日本経済に寄与してほしい

そして最後は問題定義です。分析作業を通じて発見した多くの整理されていないバラバラの問題点を、共通項で分類し、その分類された事項について、なにが言えるのかを要約するのです（帰納的に考える）。「3C」や「ビジネスシステム」というフレームワーク（整理軸）を参考に整理するのも有効です。この帰納法で整理することができて初めて、企業の本質的な問題が見えてくるの

です。二つ目は情報分析です。分析というとは、自分が理解できるレベルまで情報を細かく砕いていくことです。また分析は、市場や競合他社を知るために行うものではありません。市場のどこに成長のチャンスがあるのか、どの領域なら競合他社に勝てるのかを見極めることが分析の目的です。分析手法そのものではなく、答えを見出すための情報分析の仕方を学んでほしいと考えています。

本質的な問題が発見できれば、解決の方向性も自然に浮かび上がってくるはず。しかし私が学生の皆さんに期待しているのは、問題を見つけて成長戦略を描くことだけではありません。自ら先頭に立って問題の解決に取り組んでほしいのです。

今、日本経済の成長性は更に低下しマイナス成長になると言われています。再び日本が成長していくためには、企業の業績向上が不可欠です。そして企業が業績を上げるには、ビジネスに関わる個人々の成長が欠かせません。本質的な問題を見・解決して需要を創造し、売上を伸ばし、さらなる設備投資を行う。こうした好循環の確立にチャレンジして日本経済の発展に寄与する学生を、一人でも多く育てたいと思っています。

「問題の本質を見抜く力」の修得に必要な5つのスキル

1. 論理思考

思い込みや勘ではなく、事実ベースで客観的に評価し、「順序」で考える

2. 情報収集

“問題点と機会”を理解するために必要な情報項目を論理的に考え収集する

3. 情報分析

収集した情報を分解・比較・組合せて起こっていることを客観的に理解する

4. フレームワーク

多くの情報の意味を理解したり、解決策の可能性を考える“整理軸”が使える

5. 問題定義

集めた情報や分析結果を帰納的に考え、全体像や本質的な問題点にまとめる

プロフェッショナルの THEORY

ビジネス・ブレイクスルー大学院大学 教授 斎藤頭一氏 国際的視野と開拓者精神を備え、 グローバルな舞台で活躍する人材を育成

国際的視野と開拓者精神を備えた職業人・起業家を養成するビジネス・ブレイクスルー大学院大学。同大学院の特長の一つが、「実践」に必要なとされる「問題解決思考」型の教育を行っている点だ。

時代の変化を先取りできる
真のリーダーを目指してほしい

B B T大学院は、理論だけでなく、ビジネスの現場で実践できる経営力を修得することで、国内に限らずグローバルな市場においても活躍できる徳のあるプロフェッショナルなリーダーを養成したいと考えています。

国内市場は少子高齢化や規制緩和の遅れ等の問題を受け、新たな富の創造が難しくなっています。そのため、多くの企業は新規需要の創造という難問に取り組むと同時に海外市場に成長の源泉を求めるようになっていきます。また、インターネットの普及で経済のボーダレス化が進み、企業のグローバル化は避けられなくなっています。これら市場変化への取り組みに加え、地球温暖化が経済におよぼす影響が大きいため、環境問題への取り組みも重要な戦略課題と認識されてきました。

これら変化する経済環境の中で求められる人材は従来の事業環境で活躍できる経営者ではなく、グローバルな視点を持ち顧客目線の経営ができるリーダーだと考えます。本学の学生は、新規需要の創造を追求する起業家や環境問題に取り組む事業価値を生み出すバイオニア、真のグローバル企業への変革人材等を目指してくれるでしょう。そして自社の業績向上だけでなく、国際社会に大きな貢献をしてくれると確信しています。



斎藤頭一

さいとう・けんいち●国際基督教大学教養学部卒業。1975年マッキンゼー・アンド・カンパニー入社。同社パートナーを経て、1996年株式会社フォアサイト・アンド・カンパニーを創立、代表取締役役に就任し、現在に至る。著書に「実戦! 問題解決法」(小学館)、「問題解決の実学」(ダイヤモンド社)、「営業の問題解決スキル」(ゴマブックス)。